



エルフとやいほくるお話。





くっ...!

アッ、アッ、アッ...

ズ、ズ、ズ...

あ...!

はあ、

アッ、アッ、アッ...

ん...

はあ、

ズ、ズ、ズ...

はあ、

この子の名前は
テア

はあ、

はあ...

あーがと...

アッ、アッ、アッ...

迷子のエルフだ

はあ、

今も...

アッ、アッ、アッ...

アッ、アッ、アッ...

はあ...

アッ、アッ、アッ...

はあ...

あ...!

はあ...



30日ほど前
森の中で倒れている
テアをみつけた



これじゃ…
ダメなんです…



看病したのだが…

その場で目を
覚まさなかったので
村に連れ帰り



テアの衰弱は
マナ切れによる
ものらしい

マナ——エルフにとって
生命維持に欠かせない
その力を回復させるには

生命の源を得る必要が
あるらしく…

精液だという…

一番接種効率が
良いのが

む

わ

ふる

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

柔らかく
ひんやりとした
女性の指

頭は真っ白になって
いたが、躰は正直に
反応していて

近づく熱い吐息に
抗う事が出来なかった

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

テアの中は熱くて
異物を押し出そうと
しているようだった

腰を打ち付けて
いくうちに

膣内は次第に
柔らかくなっていき—

キツイ肉壁と
溢れてくる蜜

苦しそう
だった声は

次第に甘く

熱を帯びていく

はぁ
はぁ
はぁ

あ
あ
あ

は
は
は

は
は
は

あ
あ
あ

は
は
は

あ
あ
あ

あ
あ
あ

は
は
は

は
は
は

は
は
は

あ
あ
あ

は
は
は

は
は
は

あ
あ
あ

は
は
は

あ
あ
あ

あ
あ
あ

あ
あ
あ

は
は
は

う
う
う

は
は
は

は
は
は

は
は
は

あ
あ
あ

は
は
は

あ
あ
あ

は
は
は

次の日

元気そうなテアの姿を見て安心したが――

きょ…今日も…抱いてくちませるか…

あーあ…あーあ…

あーかどう…うん…また…

それから何度も躰を重ねる事を求めてきた…

回復の為と言われたら断りにくいし

自分の欲望も抑えられなかった

ずんずん

ずんずん

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ

あ



きつかった
膣内も



ぎこちなかった
舌使いも

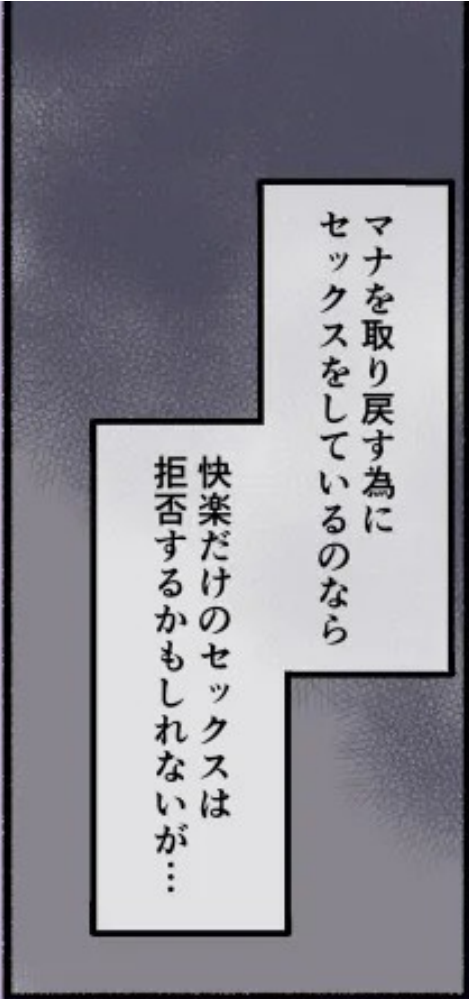


すぐに慣れたものにな
っていった

苦しそうだった
声も



ある日、テアを気持ちよくさせるためだけに徹してみたー



マナを取り戻す為にセックスをしているのなら

快楽だけのセックスは拒否するかもしれないが…



普段よりも念入りに乳首を舐め、胸を揉む



ゆっくりと舐めあげる

いつもは少ししか刺激しないクリ●リスも

クリ●リスにペニスを
擦りつけると
挿入してほしいと
おねだりしてきた

舌を膣に入れ
わざと音を立てたり

挿入たあとは
強く奥まで
突き続けた

涎と愛液で
蕩け切った膣内は

いつも以上に
締め付けがきつく

膣内に出してほしいと
言っているようだった





そんな期待を裏切るように

俺は熱をテアの舐に吐き出した

白い肌はすっかり上気し、舐を使って精一杯呼吸していた



テアは絶頂の余韻に浸っており

膣内に出さなかった事に対して言及はなかった

まだ『セックスを愉しんでいるだけ』か判断は出来ないの

色々な状況で舐を重ねてみる事にした

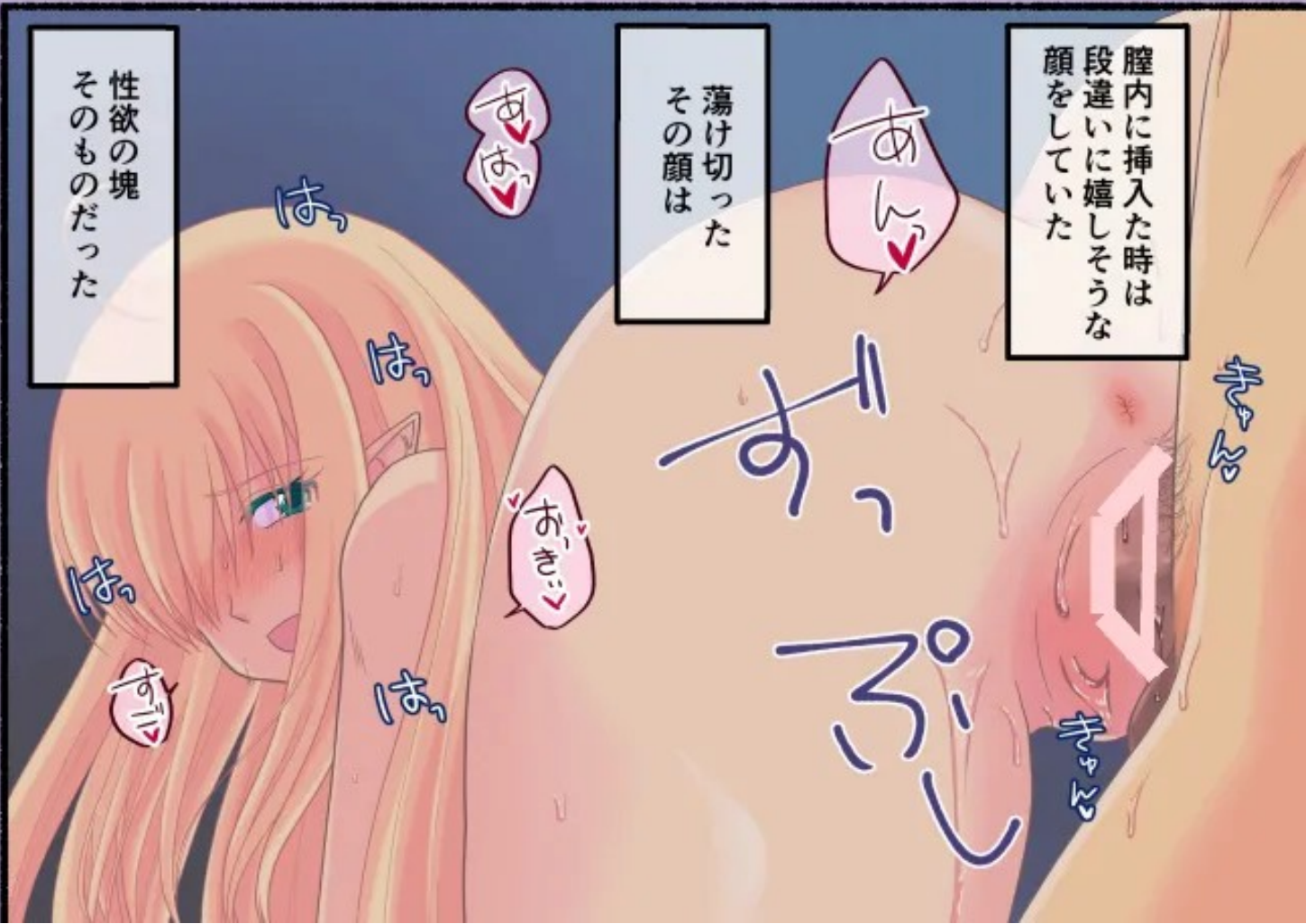


胸を使って
ペニスを扱かせた

ある時は仕事中に
呼び出し



ある時は家の裏手で
指だけでじっくり
膣内をほぐした



性欲の塊
そのものだった

蕩け切った
その顔は

膣内に挿入した時は
段違いに嬉しそうな
顔をしていた

